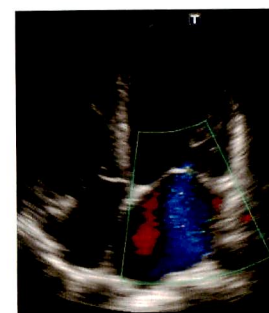


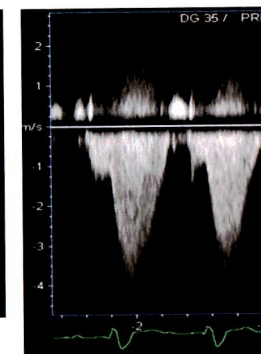
- 1 正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 診療所は入院施設を有しない。
 - b 地域医療支援病院は救急医療を提供する。
 - c 特定機能病院の受診には紹介状が必須である。
 - d 助産所は母体保護法によって規定されている。
 - e 地域包括支援センターは介護保険法によって規定されている。
- 2 1歳児の身体的診察で最後に診察すべきものはどれか。
- a 大泉門の触診
 - b 咽頭の視診
 - c 心臓の聴診
 - d 腹部の触診
 - e 皮膚の視診
- 3 器官形成期（感受期）はどの時期か。
- a 受精後0～2週
 - b 受精後2～4週
 - c 受精後4～8週
 - d 妊娠8～12週
 - e 妊娠12～16週
- 4 正しいのはどれか。
- a 健康増進法には健康手帳の交付が規定されている。
 - b 軽費老人ホームは老人福祉法による措置施設である。
 - c 高齢者医療確保法によって病床規制が図られている。
 - d 介護老人福祉施設は家庭復帰を目的とする施設である。
 - e 介護保険で要支援状態と認定されても、必要に応じて施設サービスを受けられる。

- 5 心臓超音波検査のMモードを示す画像はどれか。

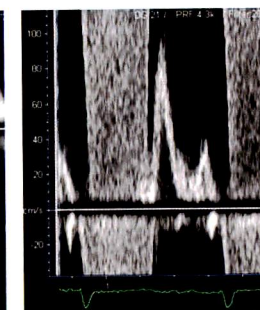
- a 図①
- b 図②
- c 図③
- d 図④
- e 図⑤



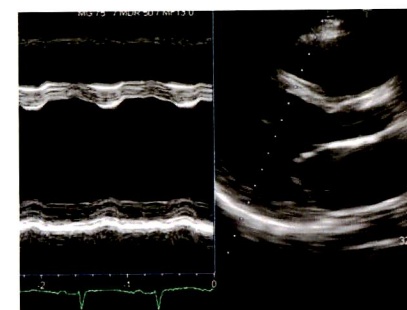
図①



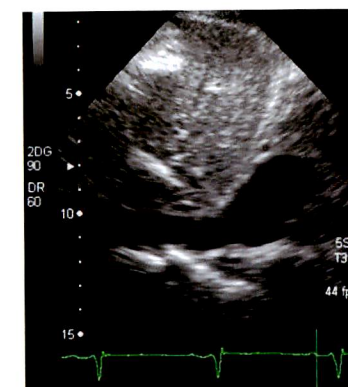
図②



図③



図④



図⑤

- 6 小児の成長で正しいのはどれか。
- a 乳歯は生後10か月頃より生え始める。
 - b 1歳での手根骨の化骨は2つである。
 - c 1歳での頭囲は約50cmである。
 - d 1歳での身長は約65cmである。
 - e Rohrer 指数は乳幼児の栄養状態の判定に使用される。

7 正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 国勢調査は人口動態統計のことである。
- b 患者調査では疾病毎の罹患率が算出できる。
- c わが国の年少人口は全人口の15%以下である。
- d 生産年齢人口は18歳から60歳までの人口である。
- e 人口動態統計には離婚に関するデータが含まれる。

8 胎児心拍（数）について正しいのはどれか。

- a 経膈超音波断層法で5週に確認できる。
- b 8週の胎児心拍数は180 bpmである。
- c 超音波ドブラ法では10週で100%確認できる。
- d 30週では基線細変動はみられない。
- e 32週では一過性徐脈の出現頻度は高い。

9 正しいのはどれか。

- a 在宅医療に関しては介護保険が適用される。
- b 社会福祉行政の第一線機関は社会福祉事務所である。
- c 在宅医療は主に訪問看護師により行われる医療である。
- d 通所リハビリテーションは介護老人福祉施設で行われる。
- e 訪問看護ステーションには常勤の医師の配置が義務付けられている。

10 疾患と生体機能検査の組合せで誤っているのはどれか。

- a 肝硬変 ————— ICG 試験
- b アカラシア ————— 直腸肛門内圧測定
- c 慢性膵炎 ————— BT-PABA (PFD) 試験
- d Zollinger-Ellison 症候群 ————— セクレチン負荷試験
- e クローン病 ————— $\alpha 1$ -アンチトリプシン試験

11 ショックと原因の組合せで誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 心原性ショック ————— 急性心筋梗塞
- b 循環血流量減少性ショック ————— 心タンポナーデ
- c 敗血症性ショック ————— 化膿性胆管炎
- d アナフィラキシーショック ————— 造影剤アレルギー
- e 神経原性ショック ————— Ⅲ度熱傷

12 認知症診断のための改訂長谷川式簡易知能評価スケールにないのはどれか。

- a 年 齢
- b 計 算
- c 曜 日
- d 図形の模写
- e 数字の逆称

13 II型呼吸不全を呈するのはどれか。2つ選べ。

- a 肺 炎
- b 無気肺
- c 過敏性肺炎
- d 慢性閉塞性肺疾患
- e Guillain-Barré 症候群

14 飢餓のときに血液中に増加するのはどれか。

- a 総コレステロール
- b インスリン
- c グルコース
- d アルブミン
- e ケトン体

15 筋性防御を伴わないのはどれか。

- a 急性虫垂炎
- b 急性胆嚢炎
- c 汎発性腹膜炎
- d 麻痺性イレウス
- e 十二指腸潰瘍穿孔

16 生後7日の正期産児で正常範囲とされるのはどれか。

- a 9%の体重減少
- b 1日5回の排便
- c 大泉門 0.5×0.5 cm
- d 1回哺乳量 $5 \sim 10$ ml
- e 右肋骨弓下に肝を4cm触知

17 次の妊婦血中ホルモンのうち妊娠中のピークが妊娠初期にあるのはどれか。

- a プロラクチン
- b プロゲステロン
- c 総エストリオール
- d ヒト絨毛性ゴナドトロピン (hCG)
- e ヒト胎盤性ラクトゲン (hPL)

18 ある疾病のために下肢に麻痺があり歩行障害が生じている。このような障害の状態をICF（国際生活機能分類）では何と呼ぶか。

- a 機能障害
- b 能力低下
- c 参加制約
- d 活動制限
- e QOL低下

19 免疫グロブリンについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a Ig MはTリンパ球から産生される。
- b 一次免疫応答ではIgG抗体が産生される。
- c モノクローナル抗体は単一の抗原決定基と反応する。
- d 定常領域の違いによって抗体は5種類に分けられる。
- e ペプシン処理により2つのFab部分と1つのFc部分に分かれる。

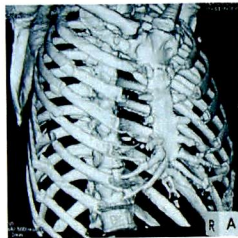
20 術後管理として適切でないのはどれか。

- a 疼痛を和らげた。
- b 不足した水分を輸液にて補った。
- c 呼吸状態のモニタリングをした。
- d 経口摂取不能であったため経管栄養を行った。
- e 必要ではなかったが念のため離床を遅らせた。

21 深部静脈血栓症の予防で誤っているのはどれか。

- a 駆血帯
- b 弾性ストッキング
- c 等尺性筋収縮訓練
- d 凝固第10因子阻害薬
- e 足底の間欠的空気圧迫

22 写真と緊急処置の組合せで誤っているのはどれか。

a		心臓穿孔
b		フレイル固定
c		陽圧換気
d		胸腔ドレナージ
e		創外固定

23 心房中隔欠損症の駆出性収縮期雑音が聴診されやすいのはどこか。

- a 心尖部
- b 胸骨右縁第4肋間
- c 胸骨左縁第4肋間
- d 胸骨右縁第2肋間
- e 胸骨左縁第2肋間

24 放射線障害で閾値がないのはどれか。2つ選べ。

- a 脱毛
- b 白内障
- c 白血病
- d 染色体異常
- e 皮膚の紅斑

25 麻薬性鎮痛薬でないのはどれか。

- a ペチジン
- b フェンタニル
- c モルヒネ
- d ケタミン
- e プロポフォール

26 前頭葉機能障害の評価に用いるのはどれか。

- a Rorschachテスト
- b 標準高次視知覚検査
- c Minnesota多面人格検査〈MMPI〉
- d Mini-Mental State Examination〈MMSE〉
- e ウィスコンシンカードソーティングテスト〈WCST〉

27 紫斑の診断に有用な検査法はどれか。

- a 硝子圧法
- b Wood灯検査
- c Nikolsky現象
- d バッチテスト
- e サーマグラフィー検査

28 頻尿と切迫感を伴う失禁の診察で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 尿道カテーテルを留置する。
- b 超音波検査による腎実質の測定を行う。
- c 尿検査を行い、結果により尿細菌培養検査を追加する。
- d 飲水後運動負荷により失禁量をパッドにより測定する。
- e 数日間の排尿日誌をつけさせて、飲推量と排尿量、その頻度を観察する。

29 正しいのはどれか。

- a 顔面動脈は外頸動脈の終枝の1つである。
- b 中硬膜動脈は内頸動脈から分岐する。
- c 椎骨動脈は脳底動脈となる。
- d 鎖骨下動脈は第2肋骨外側縁のところで腋窩動脈となる。
- e 腋窩動脈は小円筋の上縁のところで上腕動脈となる。

30 労働衛生統計で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 最近のじん肺定期健康診断での有所見率は20%を超えている。
- b 一般健康診断の有所見率が最も高い検査項目は血中脂質である。
- c 1年間に発生する休業4日以上死傷者数は1万人以下に減少した。
- d 千人率は延べ労働時間100万当りの労働災害による死傷者数である。
- e 業務上疾病では負傷に起因する疾病（特に災害性腰痛）の発生が最も多い。

31 細胞外液について正しいのはどれか。

- a 細胞外液量を調節するホルモンは、バソプレシンである。
- b 細胞外液量を維持するホルモンは、アルドステロンである。
- c 健常者の細胞外液のpHは、7.1～7.3である。
- d 健常者の細胞外液の浸透圧は、330～360 mOsm/kgH₂Oである。
- e 細胞外液の主要電解質は、KClである。

32 食餌から摂る必要のないのはどれか。

- a 葉酸
- b チアミン
- c コバラミン
- d ユビキノン (CoQ)
- e ナイアシン (ニコチン酸)

33 介入研究に関して正しいのはどれか。

- a 対象群と介入群の標本数は同一にする。
- b 偽薬（プラセボ）群であることは、処方医が知っている方が望ましい。
- c 介入により有害事象が発生したと判断した場合に、研究を中断できる。
- d 無作為割付を行うために、カルテ番号の順に対象群と介入群を交互に割りつける。
- e 投与された薬が偽薬（プラセボ）であるか、患者のみが知らない場合に、二重盲検法という。

34 常染色体性優性遺伝病はどれか。2つ選べ。

- a 口蓋裂
- b 血友病 A
- c ハンチントン病
- d 神経線維腫症 1 型
- e フェニルケトン尿症

35 以下のメカニズムのうち、他と異なるタイプの過敏性反応を仲介するものはどれか。

- a 免疫複合体沈着
- b Fc 受容体仲介性食作用
- c 抗受容体抗体による架橋活性化
- d 補体依存性細胞溶解反応（CDCC）
- e 抗体依存性細胞仲介性細胞傷害（ADCC）

36 労働安全衛生法の定期健康診断の対象者はどれか。

- a 主 婦
- b 中学教諭
- c 派遣労働者
- d 農業従事者
- e 医学部大学院生

37 抗ヒスタミン薬の有害反応はどれか。

- a 精神運動機能の低下
- b 血圧上昇
- c 体重減少
- d 不 眠
- e 流 涙

38 脳死判定について正しいのはどれか。

- a 脊髄反射は認められてもよい。
- b 自発呼吸は認められてもよい。
- c 生後満 8 週から判定が可能である。
- d 薬剤や体温による影響は考えなくてよい。
- e 15 歳以上のとき虐待の有無については考えなくてよい。

39 正しい組合せはどれか。2つ選べ。

- a 監察医 ————— 死体解剖保存法
- b 児童相談所 ————— 母子保健法
- c 定期健康診断 ————— 高齢者医療確保法
- d BCG 接種 ————— 予防接種法
- e 衛生管理者 ————— 労働基準法

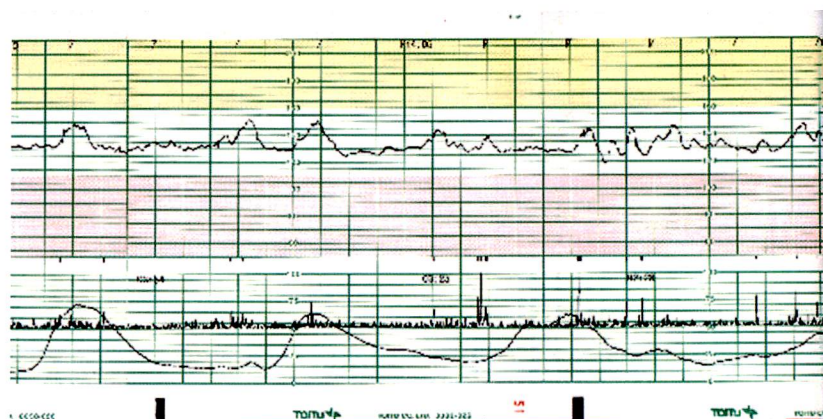
40 正しいのはどれか。

- a 右肺には大動脈溝がある。
- b 右肺は 2 葉、左肺は 3 葉からなる。
- c 胸膜腔内は陽圧に保たれ、肺を広げている。
- d 左右の胸膜腔は肺門周囲でつながっている。
- e 肺尖は鎖骨からは 2 ～ 3 cm 上方に突出している。

41 30歳の1回経産婦。前回の妊娠は妊娠40週2日で3,200gの男児を自然経膣分娩した。今回の妊娠中の経過は順調であり、妊娠38週4日に陣痛が発生したので入院した。入院後も陣痛は次第に増強して子宮口も徐々に開大した。8時間後、子宮口全開大、児頭の下降度SP+2～+3cm、小泉門は9時の方向に触知した。その2時間後も所見は変わらず、坐骨棘は触知困難で、産瘤を認めない。胎児心拍数陣痛図を示す。

この時点で考えられるのはどれか。

- a 後方後頭位
- b 低在横定位
- c 児頭骨盤不均衡
- d 続発性微弱陣痛
- e non-reassuring fetal status



胎児心拍数陣痛図

42 44歳の女性。会社の健康診断で脂質異常と肥満を指摘され、2次健康診断を勧められ来院した。現病歴：生来健康。

既往歴、家族歴：特になし

生活歴：主婦。タバコ20本/日 15年間

月経歴：30日周期、出血量は特に多くない

現 症：身長163cm、体重74kg。血圧120/86mmHg。腹囲90cm。

初診時の対応として誤っているのはどれか。

- a 高脂血症薬を投与する。
- b 血糖値を測定する。
- c 禁煙外来を予約する。
- d 腹部超音波検査を予約する。
- e 栄養指導を予約する。

43 79歳の男性。身長164cm、体重55kg。左前胸部皮下に14×9cmの脂肪腫が認められたため局所浸潤麻酔下で切除を行っていた。手術を開始して30分ごろ、口周囲のしびれ感を訴えた。血圧152/88mmHg。心拍数102/分。呼吸数16/分。手術を続行しながら経過を観察したところ落ち着きがなくなってきたため、手術を中断した。

このあと経過観察をする上で注意すべき症状・徴候はどれか。2つ選べ。

- a 鼻 閉
- b 複 視
- c 痙 攣
- d 腹部膨満
- e 発 熱

44 68歳の男性。肺がんで骨転移を認めている。最近、化学療法の効果が認められていないことを主治医から伝えられた。その後から、表情が陰しくなり、口数も少なくなった。本人は「この後どうになってしまうのが心配」「不安に押しつぶされそうになってしまうのに必死に耐えている」と話す。家族からも「少し気持ちが楽になる方法はないか」と相談があり、精神療法的なアプローチと並行して薬物療法の希望があった。

使用すべき薬剤はどれか。

- a モルヒネ
- b バルプロ酸
- c プレドニゾロン
- d アルプラゾラム
- e ハロペリドール

- 45 上大静脈と下大静脈からの同時造影写真を示す。

この患者に通常みられない所見はどれか。

- a 貧血
- b 脾腫
- c 腹水
- d 血小板減少
- e 腹壁の臍中心性皮下静脈怒張



造影写真

- 46 72歳の男性。肺結核後遺症により3年前から在宅酸素療法を行っている。普段の酸素投与量は、安静時 0.25 l/分、労作時 1 l/分である。数日前より感冒症状を認めていたが、本日より発熱、湿性咳嗽、呼吸困難が出現し、救急外来を受診した。体温 38.2℃。呼吸回数 30 回/分。脈拍 118 回/分。血圧 112/68 mmHg。SpO₂ 82% (酸素 1 l/分吸入下)。意識レベルはやや混濁。動脈血液ガス分析にて、pH 7.21、PaO₂ 51.8 Torr、PaCO₂ 68.5 Torr、HCO₃⁻ 28.4 mEq/l。

この患者について正しいのはどれか。

- a 高圧酸素療法の適応である。
- b 代謝性アシドーシスである。
- c 人工呼吸療法も考慮して診療する。
- d このまま酸素投与量は増やさず様子を見る。
- e 意識障害があるため、頭部CT検査をまず先に行う。

- 47 48歳の女性。専業主婦。健康診断で空腹時血糖 168 mg/dl、HbA1c 7.4%を指摘されたため来院した。身長 155 cm、体重 54 kg。尿蛋白(-)。普段は家で過ごすことが多く、定期的な運動は行っていない。

指示すべき食事療法で最も適切なものはどれか。

- a 1,400kcal/日 (糖質 55%、蛋白 20%、脂質 25%)
- b 1,600kcal/日 (糖質 35%、蛋白 30%、脂質 35%)
- c 1,600kcal/日 (糖質 55%、蛋白 20%、脂質 25%)
- d 1,800kcal/日 (糖質 55%、蛋白 20%、脂質 25%)
- e 1,800kcal/日 (糖質 35%、蛋白 30%、脂質 35%)

- 48 60歳の女性。嘔気嘔吐で来院した。40歳頃から蛋白尿のため近医で加療中である。意識清明。血圧 170/90 mmHg。心音は正常、両下肢に浮腫を認めた。左前腕に内シヤントがあり血流音は良好である。

尿所見：蛋白 2+、潜血 (-)。

血液所見：白血球 9,000、Hb 9.7 g/dl、血小板 19 万。

血液生化学所見：尿素窒素 99 mg/dl、クレアチニン 9.7 mg/dl。

腹部超音波で両腎の萎縮を認めた。この患者に血液透析療法を開始した。

透析液組成で正しいのはどれか。

- a Na 135 mEq/l、K 5.0 mEq/l、Ca 10.0 mg/dl、HCO₃⁻ 30 mmol/l
- b Na 135 mEq/l、K 2.5 mEq/l、Ca 7.0 mg/dl、HCO₃⁻ 10 mmol/l
- c Na 135 mEq/l、K 2.5 mEq/l、Ca 7.0 mg/dl、HCO₃⁻ 30 mmol/l
- d Na 148 mEq/l、K 5.0 mEq/l、Ca 7.0 mg/dl、HCO₃⁻ 10 mmol/l
- e Na 148 mEq/l、K 2.5 mEq/l、Ca 10.0 mg/dl、HCO₃⁻ 30 mmol/l

- 49 49歳の男性。血痰を主訴に来院した。1か月前から全身倦怠感があり、食欲が低下していた。2日前から血痰が出現し、息切れが徐々に進行した。血圧 156/94 mmHg。尿所見：蛋白 1+、潜血 3+。血液生化学所見：総蛋白 6.0 g/dl、アルブミン 3.2 g/dl、尿素窒素 45 mg/dl、クレアチニン 3.2 mg/dl。免疫学所見：CRP 5.6 mg/dl、抗基底膜抗体陽性。

アレルギー反応のCoombs分類で、この疾患と同じ型に属するのはどれか。

- a 気管支喘息
- b 急性糸球体腎炎
- c ツベルクリン反応
- d 自己免疫性溶血性貧血
- e アレルギー性肉芽腫性血管炎

- 50 58歳の男性。ウイスキーのボトルを2本飲み干したのち急激な上腹部痛を訴え来院した。血清アミラーゼ値は 2,560 U/l (基準 37~125 U/l) であった。入院加療していたが翌日の血液検査所見では血小板数 4.5 万、PT-INR は 1.83 (基準 1.00 以下)、FDP 値は 120 μg/ml (基準 4.9 μg/ml 以下) であった。出血症状は認めていない。

次に行うべき処置として正しいのはどれか。

- a 脾切除術
- b 利尿薬の投与
- c 低分子ヘパリンの投与
- d 内視鏡的逆行性膵管造影
- e 経皮経肝胆道ドレナージ

51 6歳の男児。半年前より左前腕を律動的に回施させる運動が目立つ様になる。会話時に増強する。

正しいのはどれか。

- a 3～4歳に好発する。
- b 知能障害を伴う。
- c 随意的に抑制できる。
- d 睡眠中にもみられる。
- e 脳波に棘波がみられる。

52 31歳の初産婦。妊娠39週4日。陣痛発来のため入院した。入院時の外診では第1頭位であった。内診で、子宮口7cm開大、展退度80%、児頭の下降度はSP+3cm、子宮頸部は軟、子宮口の位置は前方である。緊満した胎胞を認め、卵膜を介して矢状縫合を1時から7時方向に触知する。子宮口の中央部に小泉門に触れるが、大泉門は触れない。

正しいのはどれか。

- a 破水している。
- b 反屈位である。
- c 後方後頭位である。
- d 分娩第2期である。
- e 児頭は陥入している。

53 75歳の女性。4か月前に脳出血を発症し、右片麻痺になって入院治療を受けた。その後回復期リハビリテーション病院に転院し、1週間前に退院となった。退院前に市役所に介護保険制度に基づく要介護・要支援認定申請が行われ、要介護の認定を受けた。現在は自宅で療養しており、かかりつけ医としてその後の診療を依頼された。意識は清明で会話も可能であるが、食事や入浴、排泄などの日常生活動作(ADL)には介助が必要である。78歳の夫が一人で介護をしているが、初めての介護生活に疲労し体調不良を訴えている。ただし夫としては、今後も妻と同居することを願っている。

かかりつけ医の対応として適切でないのはどれか。

- a ケアマネージャーを紹介する。
- b 医療安全支援センターを紹介する。
- c 訪問看護ステーションを紹介し、指示書を書く。
- d 訪問介護(ホームヘルプサービス)を紹介する。
- e 老人短期入所施設(ショートステイ)を紹介する。

54 56歳の女性。熱傷後の左中指・環指から左手掌部の瘢痕拘縮を解除するため皮膚移植術を施行した。

皮膚移植の生着向上に適しているのはどれか。2つ選べ。

- a 残存する真皮層の除去
- b 出血に乏しい肉芽の残存
- c 鋼線刺入による手指の固定
- d タイオーバー法による強い圧迫
- e 瘢痕切除後の移植床からの出血

55 48歳の女性。意識障害により搬送された。1か月前から悩みごとが多く、家人ともほとんど話をしなくなった。家事はこなしていた。夕食後自室で倒れているのを娘が発見した。嘔吐痕もあり、そばには空瓶があり有機溶媒臭がしていた。救急隊到着時、JCS 200、脈拍96/分、整。血圧140/100 mmHg、SpO₂ 97%、瞳孔左右同大1.5 mmで、救急車内でも1回嘔吐を認め有機溶媒臭を認めた。

来院時、GCS 9(1-4-4)、脈拍84/分、整。血圧170/100 mmHg、SpO₂ 99%(室内気吸入下)、体温34.1℃。瞳孔左右同大1.5 mm、発汗なし。分泌亢進と尿便失禁を認めた。胸腹部、四肢には明らかな異常なし。検査所見では血液ガスpH 7.37、PaCO₂ 35.9 mmHg、PaO₂ 93.7 mmHg、HCO₃⁻ 19.7、BE-5.0。白血球15,500、赤血球524万、Hb 13.8、Ht 43.9、血小板47.7万。血液生化学所見：総蛋白8.4 g/dl、TBil 0.3 mg/dl、AST 15 U/l、ALT 15 U/l、ALP 132 U/l(基準115～359)、LDH 442 U/l(基準119～229)、CPK 120 U/l(基準44～170)、Amy 114 U/l(基準37～125)、BUN 12 mg/dl、Cre 0.7 mg/dl、UA 4.3、Na 138 mEq/l、K 3.7 mEq/l、Cl 102 mEq/l、Ca 9.6 mg/dl、I-P 3.1 mg/dl(基準2.5～4.7)、Glucose 164 mg/dl、Ch-E(真性)0.8 U/l(基準1.2～2.0)(疑性)2.1 U/l(基準4.1～8.5)であった。心電図ではQTcが0.397秒であった。

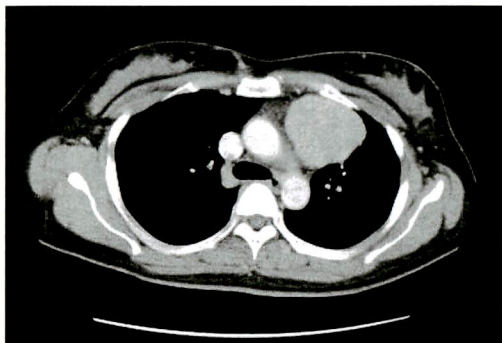
処置として適切なのはどれか。

- a アセチルシステイン
- b チオ硫酸ナトリウム
- c メチレンブルー
- d 硫酸アトロピン
- e BAL

- 56 50歳の女性。健康診断で胸部エックス線写真の異常を指摘され来院した。2か月前から夕方になると物が二重に見えるようになるが翌朝は改善するために放置していた。胸部造影CTを示す。

診断に有用な血液検査項目はどれか。

- a 抗核抗体
- b 抗Jo-1抗体
- c 抗SS-B抗体
- d 抗TSHレセプター抗体
- e 抗アセチルコリンレセプター抗体



胸部造影CT

- 57 21歳の男性。サッカーの練習中に右膝前十字靭帯を断裂したため、前十字靭帯再建手術を受けた。

麻酔は硬膜外麻酔併用脊髄くも膜下麻酔であった。

脊髄くも膜下麻酔として用いられる薬剤はどれか。

- a ジアゼパム
- b 塩酸ジヒドロコデイン
- c セボフルラン
- d コカイン
- e プピバカイン

- 58 54歳の男性会社員。4月に部長に昇格し、多忙で責任の重い職務に就いた。当初は頑張っていたが、6月ごろより疲労感を訴えるようになり、睡眠も十分に取れなくなった。判断力が落ち、部下への適切な指示ができなくなってきたことで、大きな仕事上のミスが発覚した。本人はその対応と謝罪に追われたが、責任の追及は厳しく、会社でもふさぎこんでいた。7月中旬のある朝、早朝に会社のトイレの中で首をつろうとして失敗し、倒れているところを発見され会社の医務室に運ばれた。本人は「自分の不注意で仕事に大きな穴をあけてしまって、この1か月間ずっと落ち込んでいた。その責任を取りたい」と訴えた。一方で、「でも自殺して責任をとるって言うのは変ですよね、もう吹っ切れました。大丈夫です」と話した。上司が休養や病院受診を勧めるが、本人は拒否している。

適切な対応はどれか。

- a 部長職を解き、すぐに配置換えをして勤務をさせる。
- b 責任を果たすために、休職させずに勤務を継続させる。
- c 休養を勧め、家族にも連絡して医療機関の受診を促す。
- d 本人が拒否している以上、医療機関には受診は勧めない。
- e 仕事のミスが原因であり、それを解決することを優先する。

- 59 75歳の男性。変形性膝関節症に対し、消炎鎮痛薬であるアンピロキシカムが投与され、2週後より頭部、前胸部、両手指背に紅斑が出現した。皮疹部の写真を示す。

診断に重要なのはどれか。3つ選べ。

- a バッチテスト
- b プリックテスト
- c 光バッチテスト
- d 最少紅斑量試験
- e RAST



皮疹部の写真

60 採血後の針を廃棄する容器を図に示す。

使用法について正しいのはどれか。

- a 点滴セットもこの容器に入れる。
- b 針はリキャップして容器に入れる。
- c B型肝炎患者に使用した針もこの容器に廃棄する。
- d 容器がいっぱいになったら蓋をして廃棄する。
- e 容器を廃棄する前に次亜塩素酸を加えて滅菌する。



採血後の針を廃棄する容器

61 28歳の初産婦。妊娠32週0日の妊婦健康診査で胎児の発育に異常を指摘され来院した。超音波検査で児は男児で、児頭大横径（BPD）は77mm、腹囲（AC）は24.5cm、大腿骨長（FL）は55mm、推定体重は1,290gである。

この病態と関連があるのはどれか。

- a 淋菌
- b B群レンサ球菌（GBS）
- c クラミジアトラコマティス
- d インフルエンザウイルス
- e サイトメガロウイルス

62 65歳の男性。自宅で鮮紅色の下血をきたし、救急車で搬送され来院した。意識は不穏状態である。身長183cm、体重70kg、脈拍120/分、整。血圧83/40mmHg。皮膚は蒼白で冷たい。血液所見：赤血球220万、Hb 6.3g/dl、Ht 22%、白血球8,700、血小板10.8万、PT 11.5秒（基準対照11.3）、APTT 32.3秒（基準対照32.2）、総蛋白6.9g/dl、アルブミン4.0g/dl。

この患者に適切な輸血はどれか。

- a 自己血
- b 濃厚血小板
- c 赤血球濃厚液
- d 新鮮凍結血漿
- e 近親者からの新鮮血

63 51歳の男性。下肢の皮疹を主訴に来院。2週前に感冒様症状のため市販薬を内服した。1週前より下肢に皮疹が出現し次第に増えた。2日前より腹痛と足関節および膝関節の疼痛を認める。既往歴は特になし。皮疹は硝子圧法で消退しない。下肢の写真を示す。

考えられる疾患はどれか。

- a 単純性紫斑
- b 慢性色素性紫斑
- c Schonlein-Henoch紫斑病
- d 高グロブリン血症性紫斑
- e アレルギー性肉芽腫性血管炎



下肢の写真

次の文を読み、64～66の問いに答えよ。

26歳の男性。腹痛と下血を主訴に来院した。

現病歴：1か月前より腹痛と水様性下痢（10回以上/日）が続いていた。数日前より1日に15回以上の血性下痢が続くため緊急入院となった。大腸内視鏡検査を行ったところ、全大腸に別に示す所見を連続性に認めた。組織検査では、粘膜全層にびまん性炎症細胞浸潤と陰窩膿瘍を認めた。入院後、ステロイド療法や顆粒球除去療法を行うが便の性状に変化は認められない。

家族歴、既往歴：特記すべきことなし。

現 症：意識は清明。身長165 cm、体重45 kg。体温38.5℃。脈拍92/分、整。血圧104/60 mmHg。腹部は右下腹部を中心に強い圧痛あり、膨満。

検査所見：血液所見：赤血球240万、Hb 6.5 g/dl、白血球15,000、血小板12万。血液生化学所見：総蛋白4.6 g/dl、アルブミン1.8 g/dl、CRP 15.3 mg/dl。大腸内視鏡検査所見を示す。

64 下血の原因はどれか。

- a 腸重積症
- b 虚血性腸炎
- c クロウン病
- d 潰瘍性大腸炎
- e 絞扼性イレウス

65 治療方針の決定に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a 小腸造影
- b 注腸造影
- c 腹部CT検査
- d 上部内視鏡検査
- e 腹部単純エックス線検査

66 正しいのはどれか。

- a 高圧浣腸を行う。
- b 緊急手術を行う。
- c 5-ASA製剤を開始する。
- d イレウス管を挿入する。
- e 腹部血管造影検査を行う。



大腸内視鏡検査所見

次の文を読み、67～69の問いに答えよ。

31歳の女性。四肢の脱力と全身倦怠感を主訴に来院した。意識は清明。身長146 cm、体重32 kg。脈拍102/min。血圧95/45 mmHg。四肢の筋力低下と軽度の深部腱反射低下を認める。尿所見：蛋白(-)、潜血(-)、尿糖(-)。血液所見：赤血球450万、Hb 14 g/dl、Ht 45%、白血球6,300、血小板35万。血液生化学所見：総蛋白7.4 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、クレアチニン0.68 mg/dl、Na 139 mEq/l、K 2.8 mEq/l、Cl 95 mEq/l、Ca 9.1 mg/dl、P 3.4 mg/dl、血漿レニン活性<PRA> 28 ng/ml/時間(基準1.2～2.5)、アルドステロン132.1 ng/dl(基準5～10)。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)：pH 7.48、PaO₂ 98 Torr、PaCO₂ 48 Torr、HCO₃⁻ 35 mEq/l。

67 本症例に認める所見はどれか。

- a グル音亢進
- b 低浸透圧尿
- c 低尿酸血症
- d 尿中Na排泄増加
- e 心電図のテント状T波

68 考えられる疾患はどれか。

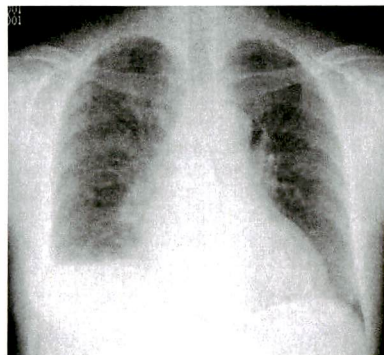
- a Liddle症候群
- b Bartter症候群
- c Fanconi症候群
- d 尿細管性アシドーシス
- e 原発性アルドステロン症

69 治療法として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ループ利尿薬
- b 生理食塩水の輸液
- c アルドステロン拮抗薬
- d 5%グルコースの輸液
- e サイアザイド系利尿薬

次の文を読み、70～72の問いに答えよ。

68歳の男性。幼少時に結核の既往がある。5年前より健康診断にて肝機能障害を指摘されたが、放置していた。3年前より労作時に息切れを感じ、1年前からは下腿の浮腫と腹部膨満感を自覚するようになった。数か月前から階段を上るのがつらく、ときに眼前暗黒感を感じることがあった。数週間前から全身倦怠感が徐々に強くなり、呼吸困難と下腿浮腫が増強したため入院となった。脈拍 100/分、不整。血圧 88/66 mmHg。結膜に貧血はないが、黄疸あり。肺呼吸音はないが、拡張早期に過剰心音を聴取した。肝腫大と腹水を認め、頸静脈怒張が著明であった。血液生化学所見：T.Bil 2.2 mg/dl、ALT 32 IU/l、AST 34 IU/l、Cre 1.3 mg/dl、BNP 22 pg/ml。入院時の胸部エックス線を以下に示す。

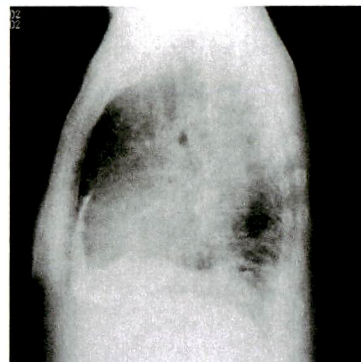


70 本例で認められる身体所見はどれか。

- a Osler 徴候
- b Kernig 徴候
- c Quincke 徴候
- d Kussmaul 徴候
- e De Musset 徴候

71 確定診断に最も有用な検査はどれか。

- a 腹部CT
- b 冠動脈造影
- c 心内圧測定
- d 呼吸機能検査
- e 薬剤負荷タリウム心筋シンチグラム



胸部エックス線

72 治療としてふさわしいのはどれか。

- a 心膜剥離術
- b 生体肝移植
- c 僧帽弁置換術
- d 冠動脈バイパス術
- e 大動脈ステント留置術